

池口龍法

(いけぐちりゅうほう)

『フリースタイルな僧侶たち』代表

東山区の浄土宗総本山知恩院。そこに、京大の先輩でユニークな活動をされているお坊さんがいらっしゃる。『フリースタイルな僧侶たち』略して『フリスト』の発行を筆頭に、「仏教は失恋に効くか」を考える勉強会の開催など、活動は書き切れないほど多岐に渡ります。今でもNFにしばしばお越しになるといいます。口さんにお話を伺ってきました！ (とろわ)

—ユニークな活動が多いですね。

若い自分たちがどうやって考えてるのか自分たちで発信してみないと、という気持ちで『フリスト』を創刊したんだよね。今は核家族が多いから、ご年配の方々の背中を追いかけて生きることが無くなって、**同世代でつながっていくのが多くなってる**。たとえば、ケータイなんてのは僕が高3とか大学1回生くらいのときに普及し始めたくらいだね。それまでは、女の子の家に電話をするにも、家の電話にかけてそこのお母さんに「〇〇さんいますか？ 同級生の××です」とか言わなきゃいけない。こういう「親フィルター」がずっとあったのに今は無いし、TwitterとかFacebookとかmixiとかで横のつながりが多くなった。若い世代同士が自分たちで新しく切り開いていくという意味ではクリエイティブかもしれないけど、新しいしんどさやしがらみもあると思う。

お寺に来る人が少なくなっているとも指摘されている今、このことを考えると、**自分たちから仏教をわかりやすく発信することで何か変わるかもしれない**と思ったんだよね。自己啓発とかパワースポットとか、精神的なレベルで癒しを求めてる人が多くなってるなという感覚があつて。こういう業界で発せられている言葉と仏教の世界で発せられる言葉が似通っていると思えたから、良い勝負ができるかもしれないな、と。もしダメだったら諦めればいって思ってた。お坊さんもお寺の中に閉じこもってないで、見せ方を変えてみようってことだね。

インドの仏教的な世界観って、天動説だし、地中深くには地獄があるし、北の方の山の上には天の世界があるし、すごく空想的。まあ、それは実際とちょっと違うよねと思うんだけど、古からの仏教の教義を少しずつアップデートしていけば、現代でもニーズはあるだろうな。そういう思いでとりあえず始めたら、お坊さんがフリーペーパーを出しているという意外性がウケて新聞に取り上げられたりしてね。「**お坊さんとかお寺って、お葬式と観光のときだけじゃないんだ**」ってよく言われるね。

—なるほど。では、今後の展望は？

古い言葉で「継続は力なり」「石の上にも3年」ってあるけど、それは本当に、続けているうちにあいつら本気なんだなって評価してもらえる。言葉通り、3年ってのは大きな節目かもしれない。そうやって長くやっていると、**縁(ネットワーク)がだんだんつながってくる**。最近の人は自分の世界は自分で作るんだって思ってる人が多いけど、自分の力ではどうしようもない何か動いて、出会うべき人とどこかで出会う中で縁が生まれていくんだなって感じるね。

自力で何でもできるってわけじゃないんだから、縁に感謝しながら、与えられた環境を活かしている**面白いことを仕掛けていきたい**と思う。多くを求めるといよりは、時間はかかっても今できることをコツコツやっていこうと。そうはいっても、やっぱりでかい夢があった方が燃えるんだよね(笑)。

—仏教は心が落ち着く気がします。

仏教ブームだって最近言われるけど、気持ちはずっとなくわかるよね。流れてくる情報量が多くなりすぎて疲れるでしょう？ FacebookとかLINEとかを普段から使っていると、生活をさらけ出すからオンオフがなくなっちゃう。だから、座禅とか断捨離とかでリセットしたいのかもしれない。立ち止まって落ち着いて振り返って、心の中の古い情報を整理する時間を作ることが大事だと思う。僕も心掛けてて、1時間くらいぼーっと散歩したりすると不思議と考えがまとまってくるんだよね。仏教があるからって悩みが解決するとも思わないけど、**心のメンテナンスをするコツの一つとしてうまく仏教と関わってほしい**。南無阿彌陀仏と唱えれば極楽浄土へ行けますとだけ言われても「えっ？」ってなると思うし。

—どんな京大生だったんですか？

京大では音楽研究会に入っていて、勉強もしつつ、ゆるーくやってた。講義があるのに休み時間にCD買いに三条まで行ったり(笑)。ハーモニカをやってたんだけど、音域が広いからヴァイオリン曲やフルート曲を演奏できるのが魅力で、BOXではクラシックの議論がされて、**知らない世界を垣間見られて面白かった**。良い環境でした。仏教学の文献学を学んでたけど、昔のことを正確に追求するっていうのが、解釈とかをやった僕には少し合わなくて。でも、その追求度の高さには敬意を払ってるし、おかげで今役立っててもいるわけだけ。

—私たちに何かアドバイスを！

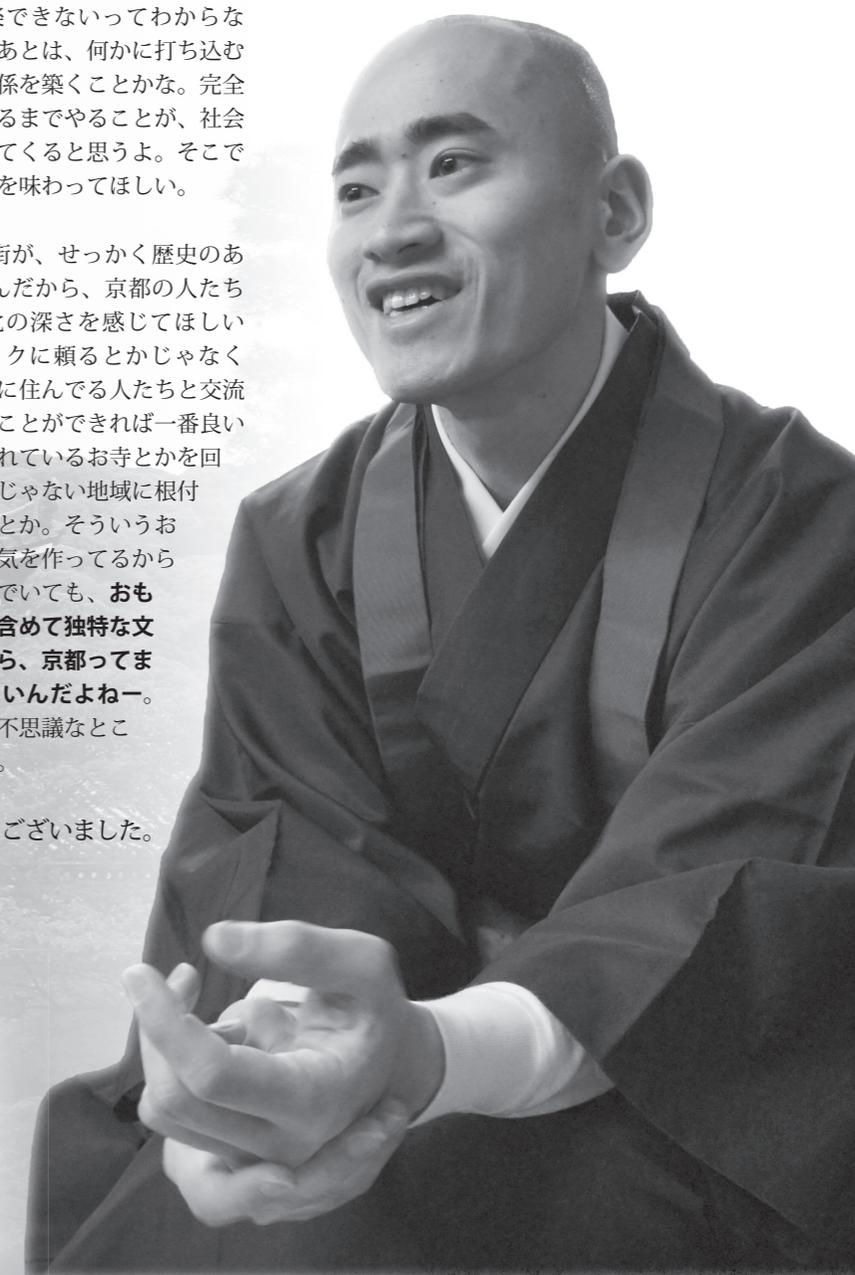
学生時代にはとにかくとことんやってほしいかな。**自分の本当の才能って何なんだろうって**。学生時代には自分の可能性に限界は無いと思ってるかもしれないけど、もしかしたらそんな才能無いかもしれないし。でも、そういうのってとことんやらなきゃわからないんだよね。僕も、中途半端にしか音楽をやったなかったら音楽できないってわからなかったと思う。あとは、何かに打ち込む中で良い人間関係を築くことかな。完全燃焼で燃え尽きるまでやるのが、社会に出てから効いてくると思うよ。そこで充実感と絶望感を味わってほしい。

住んでいる街が、せっかく歴史のある京都なんだから、京都の人たちが持つ文化の深さを感じてほしいね。ガイドブックに頼るとかじゃなくて、ずっと京都に住んでる人たちと交流しながら感じる事ができれば一番良いかな。観光化されているお寺とかを回るよりも、そうじゃない地域に根付いたお寺を巡るとか。そういうお寺は地域の雰囲気を作ってるからね。何年か住んでいても、**おもてなしの文化も含めて独特な文化を持ってるから、京都ってまだまだわからないんだよね**。でも、そういう不思議なところが面白いよね。

—ありがとうございました。

プロフィール

『フリースタイルな僧侶たち』代表の浄土宗僧侶。1980年生まれの32歳。私立甲陽高校出身。京大文学部卒業、大学院文学研究科中退。専修は仏教学。2005年から知恩院で奉職。Twitterアカウントは@senrenja



『フリースタイルな僧侶たち』とは

『フリースタイルな僧侶たち』は、2009年8月に創刊された、お坊さんたちが作るフリーペーパーです。年6回、偶数月1日に関西と東京を中心に配布されています。京大近辺では、ガケ書房や恵文社など複数カ所に設置してあります。また、ホームページ (<http://www.freemonk.net/>) でも公開されています。

